
リリースノート

出版番号 :E5902-92003
2000年5月

© Copyright Agilent Technologies 1994-2000
All Rights Reserved

ファームウェアの更新

ファームウェアの更新

ファームウェアにより、特定のプロセッサまたはプロセッサ群の情報がエミュレーション・プローブに指定されます。既にお持ちの E5900A#800、E5903A#800 を東芝製 TX39/H2 コアで使用するためには、ファームウェアの更新をする必要があります。トレースポート・アナライザは、TX19/39 用からの更新のみ可能です。

本ドキュメントで、以下を説明します。

- E8151P ファームウェアとエミュレーション・プローブを使用し、トレースポート・アナライザの更新
- エミュレーション・プローブの E8151A ファームウェアへの更新
- 性能検証テスト

トレースポート・アナライザの更新

更新ファイルの準備

更新用のファイルは、E5902A #810 製品に付属のフロッピーディスク二枚に入ってます。フロッピーの内容を以下の手順にてローカルドライブにコピーし、使用します。

- 1 ローカルハードディスク上に新しいディレクトリを作成し、添付のフロッピー二枚の内容を全てコピーします。

MS-DOS マシンからは、下記のコマンドで行うことができます。

```
md c:hprobe
```

```
copy *.* c:\hprobe
```

フロッピー二枚に対して同様に行います。(二枚の内容を同じディレクトリに格納します。)

フロッピードライブ付きの HP-UX マシンでは下記のコマンドで行えます。この中で <floppy device> と有る部分は、お客様のマシンでのフロッピードライブのデバイスファイル名を入れて下さい。標準のデバイスファイル名は通常 "/dev/rst/0s1" もしくは "/dev/rfloppy/c0t1d0" です。

```
mkdir hprobe
```

```
cd hprobe
```

```
doscp <floppy device>:/* .
```

SUN Solaris マシンでは下記のコマンドで行えます。

```
volcheck
```

```
mkdir hprobe
```

```
cd hprobe
```

```
cp /floppy/floppy0/* .
```

```
eject
```

リリースノート：ファームウェアの更新
エミュレーション・プローブの E8151P ファームウェアへの更新

SunOS4.1 マシンでは MS-DOS フォーマットのフロッピーを読むための標準ユーティリティツールが有りません。標準以外のユーティリティをご使用になる場合は、お客様のシステム管理者にご相談下さい。又は、下記に述べる方法で LAN 接続された PC からフロッピーをコピーして下さい。

全ての UNIX マシンでは、LAN 接続された PC からファイル転送のユーティリティ (ftp や rcp) を使用してコピー出来ます。この場合全てのファイルに関してバイナリーモードでの転送を指定して下さい。使用するユーティリティーによってはコピー後のファイル名が全て小文字・又は大文字になる場合が有ります。本文書では次章以降に示すファイル名は全て小文字で表現されています。もし、お客様のケースで全て大文字になった場合は、全ての "*.X" ファイルは小文字の x に Rename して下さい ("*.x")。又、prgflash.xxx に chmod 555 を実施して、実行可能なファイルにしておく必要が有ります。

エミュレーション・プローブの E8151P ファームウェアへの更新

- 1 Emulation Probe のみに電源を投入し、LAN に接続します。(Trace Port Analyzer は接続しない状態です)
- 2 アップデートファイルがコピーされたローカルディレクトリへ cd (change directory) します。
- 3 お使いになるホストに合わせて、下記の内一つの prgflash ファイルを使用します。

prgflash.hp7 - for HP-UX series 700 (LAN 経由)

prgflash.sun - for Sun OS 4.1 (LAN 経由)

prgflash.sol - for Sun Solaris 5.1 (LAN 経由)

prgflash.exe - for Windows 95 and NT (LAN 経由)

- 4 E8151P ファームウェアへ更新する為には、下記コマンドを入力します。

```
prgflash.xxx -v <ip addr> e8151p
```

xxx は hp7, sun, sol もしくは exe をホストに合わせて選んで下さい。又 <ip addr> は E5900A #800 Emulation Probe の IP アドレスを入力して下さい。

エミュレーション・プローブを使用してトレースポート・アナライザの更新

- 1 エミュレーション・プローブの E8151P ファームウェアへの更新が終了しましたら、エミュレーション・プローブの電源を切ります。
- 2 Emulation Probe に Trace Port Analyzer を 50pin ケーブル、DC ケーブルを使用し、接続します。先端の TIM ボード (Trace Port Analyzer に付いている小さな基盤) は外しておいてください
- 3 Emulation Probe に電源を投入します。
- 4 お客様のパソコン又は、ワークステーション等から telnet で Emulation Probe に接続します。
- 5 プロンプトから `pldpgm` コマンドを実行します。約五分程度経過するとコマンドが終了します。画面に下記が表示されることを確認します。

```
q>pldpgm
Reprogramming Trace Port PLD
Reprogramming Trace Port Front End
!STATUS 878! Reprogrammed Trace Port PLD
!STATUS 878! Reprogrammed Trace Port Front End
q>
```

- 6 “`ver -a`” コマンドを実行し、画面に下記が表示されることを確認します。(バージョン・日付等が実際の物と違う場合があります)

```
q>ver -a
```

```
Copyright (c) Agilent Technologies, Inc. 2000
All Rights Reserved.  Reproduction, adaptation, or translation without prior
written permission is prohibited, except as allowed under copyright laws.
```

```
HPE3499B Series Emulation System
Version: A.07.63 08Mar00
Location: Generics
```

```
HPE8151A Toshiba TX39/H2 Emulator
Version: A.01.00 09Mar00
```

```
HPE8151P Toshiba TX39/H2 Trace Port Analyzer
Version: P.01.00
```

```
!ERROR 876! Please re-install processor firmware, update with E8151A
!ERROR 876! Please re-install processor firmware, update with E8151A
q>
```

エミュレーション・プローブの更新

エミュレーション・プローブの E8151A ファームウェアへの更新

- 1 トレースポート・アナライザの更新が終了しましたら、エミュレーション・プローブの電源を切り、50pin ケーブル、DC ケーブル、そしてトレースポート・アナライザをエミュレーション・プローブから外します。
- 2 アップデートファイルがコピーされたローカルディレクトリへ `cd (change directory)` します。
- 3 お使いになるホストに合わせて、下記の内一つの `progflash` ファイルを使用します。

`progflash.hp7` - for HP-UX series 700 (LAN 経由)

`progflash.sun` - for Sun OS 4.1 (LAN 経由)

`progflash.sol` - for Sun Solaris 5.1 (LAN 経由)

`progflash.exe` - for Windows 95 and NT (LAN 経由)

- 4 E8151P ファームウェアへ更新する為には、下記コマンドを入力します。

```
progflash.xxx -v <ip addr> e8151
```

xxx は `hp7`, `sun`, `sol` もしくは `exe` をホストに合わせて選んで下さい。又 `<ip addr>` は E5900A #800 Emulation Probe の IP アドレスを入力して下さい。

ファームウェアの更新中に電源異常が発生した場合

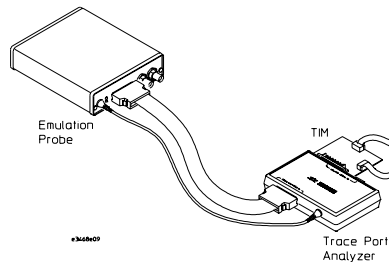
ファームウェアの更新中に電源のグリッチが発生した場合、ダウンロードの過程でいくつかのビットが欠落することがあり、HP プロセッサ・プローブがブート・アップしない結果となることがあります。

- ❑ スイッチ S4 を OPEN にし、電源を再投入します。これは、HP プロセッサ・プローブに、フラッシュ EPROM 内のブート・コード以外の全ての内容を無効にするように指示するものです。
- ❑ ファームウェアの更新プロセスを繰り返します。
- ❑ スイッチ S4 を CLOSED にし、電源を再投入します。これにより、HP プロセッサ・プローブは通常モードに復帰します。

性能検証テスト (PV テスト)

エミュレーション・プローブでTIMおよびトレース・ポート・アナライザのPVテストを実行する

- 1 20ピン・ケーブルをTIM上のターゲットコネクタと、ループバック・コネクタに接続します。.



- 2 エミュレーション・モジュールに telnet で接続します。
- 3 `pv 1` コマンドを入力します。

以下のような結果が画面に表示されます。(E8151 TIM/TP Test が pass する事を確認します)

```
Testing: HPE3499B Series Emulation System
Test 1: Powerup PV Results           Passed!
Test 2: LAN 10Base2 Feedback Test    Not Executed!
Test 3: LAN 10BaseT Feedback Test    Not Executed!
Test 4: Break In and Trigger Out BNC Feedback Test Failed! <<<<<
Test 5: Target Probe Feedback Test   Not Executed!
Test 6: Boundary Scan Master Test    Not Executed!
Test 7: I2C Test                     Not Executed!
Test 8: Data Lines Test              Passed!
Testing: HPE8151A Toshiba TX39/H2 Emulator
Test 1: E8151 TIM/TP Test            Passed!
FAILED Number of tests: 1           Number of failures: 1
```

Copyright (c) Agilent Technologies, Inc. 2000
All Rights Reserved. Reproduction, adaptation, or translation without prior written permission is prohibited, except as allowed under copyright laws.

HPE3499B Series Emulation System

Version: A.07.63 08Mar00

Location: Generics

HPE8151A Toshiba TX39/H2 Emulator

Version: A.01.00 09Mar00

HPE8151P Toshiba TX39/H2 Trace Port Analyzer

Version: P.01.00

性能検証テストが失敗した場合

- ❑ テストの失敗に関する詳しい内容は、2 以上の -v オプション（「詳細」レベル）を使って入手できます。
- ❑ 20 ピンケーブルのループバックが正しく行われているか確認下さい。
- ❑ それでも問題が解決しない場合は、当社までご連絡ください。

リリースノート：ファームウェアの更新
性能検証テストが失敗した場合